地産地消で協働のまちづくり!

地域の魅力を発信している方々にインタビュー vol.3

地域の力確立委員会（阪井健太郎委員長）は「地産地消」を通して、協働のまちづくり実現を目指しています。やっさもっさでは連載記事として「地産地消」のまちづくりに関係のある方に話を聞き三原市の現状を確認します。今月は三原商工会議所、商工振興課係長の小川洋良氏にお聞き致しました。

企業の立場から見た地産地消

―― 行政や生産者の方々が地産地消に力を入れ始めていますが、企業としてはどのような動きをされているのでしょうか？

小川係長　三原商工会議所は、旧三原市の企業の方々にご入会頂いています。旧三原市には、地元の生産物を加工するような企業がほとんど無いため、特に企業全体としては、地産地消に対しての動きはないと思います。また、ある加工業者も加工した後の商品が希望通りにならないため、地元産を使用しないという声を聞いた事があります。

駅前市民広場deテント市について

―― 5月から駅前市民広場でテント市を開催されていますが、こちらでは地物生産物の販売はされてないのでしょうか？

小川係長　三原商工会議所は、三原市より委託され、駅前広場の管理運営を行っています。駅前広場は、芝生スペースと多目的スペース、有料駐車場があります。その中の多目的スペースは、中心市街地の賑わい創出のため各種催しにご利用いただけるようになっています。そのスペースをテント市実行委員会（仮）が主催により開催されたのが「三原駅前広場deテント市」です。このような趣旨ですので、地元産の農水産物を直販される方もいらっしゃれば、違う物を販売される方もいらっしゃいました。特に販売するものに規制をしていないようです。ただ、終わった後のお客様のアンケートでは「もっと地元産の食材が欲しい」という要望も聞いておりますので、その声にお応えできるような運営ができれば良いと思います。

地産地消WG参画について

―― 5月号で三原市役所の農林水産が座長なり、地産地消ワーキンググループ（以下：WG）の中で地産地消の推進を行なっていると記載させて頂きましたが、三原商工会議所も参画されておられます。どのような活動をされていますか？

小川係長　地産地消WGは、ご存知の通り「三原市ふるさと情報発信推進協議会」が各事業を推進するために設置した5つのWGの中の1つです。三原商工会議所はWGの親会である「三原市ふるさと情報発信推進協議会」の委員でもあり、地産地消WGにも配属されています。この協議会に（社）三原青年会議所も委員として参画されていますね。ぜひWGにも顔を出して頂きたいと思います。地産地消WGの現在の動きですが、様々な問題から、なかなか進んでおりませんが、5月号で沖野主幹がおっしゃられたように、地元産の食物を三原で食べられる飲食店を三原市飲食組合と連携して、推進してゆくことを検討しています。他の先進地事例を調べてみると、地産地消として販売する料理の地元比率を何%にするかなど、決める事が多く、細かな点を協議してゆく必要があります。導入された飲食店には、ステッカー等を貼り、市民に分かりやすくし、メリットも出してゆく予定です。

地産地消の日、設立について

―― 地域の力確立委員会、阪井委員長は、地産地消を三原市に根付かせるため、地産地消の日を設立したいと考えているようですが、その際商工会議所のご協力は頂けますでしょうか？

小川係長　もちろん協力はいたしますが、先ほどの「三原市ふるさと情報発信協議会」の話でも申しましたように（社）三原青年会議所も協議会の委員なのですから、親会で協議し、WGに落とし込んだ方が良いのではと思います。

協働で地産地消はできるか!?

―― （社）三原青年会議所では、市民、企業、行政が協働でまちづくりを行ってゆく必要があると考えていますが、この地産地消を協働で行うことはできるでしょうか？

小川係長　協働で行うことは出来ると思いますが、企業の立場では、他の行政や生産者とは、かなりの温度差があるので、まずは情報交換をする場が必要だと思います。その中で、地産地消を行ってゆくためには、どのような立場の方の賛同が必要なのか明確になるのではと思います。

まとめ

企業の立場では、地産地消の推進は、行政や生産者よりも進んでいないと感じました。しかし違う立場の方からの意見で、より地産地消が進んでゆくと考えます。協働で行なってこそ、地産地消が実現するのです。

（社）三原青年会議所は、今回の貴重なご意見を参考にして「地産地消」を通した協働のまちづくり活動を目指して参ります。

おがわ ひろよし
小川洋良 氏
三原商工会議所
商工振興課係長
18年間一般企業に勤められ、10年前から三原商工会議所に。生まれは三原市本町。現在中之町在住。

森川隆三さん

チーム結成まで

質問　1回目の「やっさ祭り」出場までの経過はどのようでしたか？

葛西　子ども達を中心としたチームで出場するためには、小学校の協力が必要ですので2002年10月に青少年糸崎地区協議会を通じて糸崎小学校に協力の依頼をしました。そこから、私たちを含めて地域の大人8人が中心となって学校側・保護者側などとの協力体制を作り上げましたが、準備期間に時間がかかり翌年の「やっさ祭り」には間に合いませんでした。しかし、2004年の「やっさ祭り」に「糸崎ふれあいチーム」として第1回目の出場ができる運びとなりました。

質問　どのような点にご苦労されましたか？

葛西　子ども達は喜んで「やっさ祭り」に参加したいと言ってくれますが、参加するためには練習や準備・当日の設営など、地域の大人だけでは解決できない問題もありました。しかし、学校側に踊りの練習会を開いていただけたこと、ＰＴＡの方々にもお忙しい中で、子ども達の世話をしていただけたことや花車の製作など、様々な協力の下で解決できました。

質問　そして、現在は小学校チームとして出場となったわけですね。

森川　そうですね。2年前に「やっさ祭りの子ども部門」が新設されたことにより「糸崎小ふれあいチーム」として学校単位での出場となり、現在では学校が中心となって出場しています。しかし、地域・学校・保護者の協力体制は変わらず、学校では運動会や授業に「やっさ踊り」を取り入れていただいていますし、今年からはＰＴＡの年間事業として「やっさ祭り出場」を取り入れていただけたり、年々協力体制は広がりを見せていますよ。

葛西脩さん

「やっさ」を通じて地域と家庭の絆が深まった

質問　開催年数を重ねるにつれて、地域との関係や保護者・子ども達との繋がりはどのように変ってきたと思われますか？

葛西　「やっさ祭り」に出場するということは、それに向けて練習や準備などで集まる機会が多くあります。私達が若い頃は地域の集まりは当たり前だったことですが、最近では外で遊んでいる子ども達がどこの家の子どもなのかも分からないし、近所に住んでいるのに顔を知らない家庭があったりします。この取り組みを通じて地域の方々と、より深い関係を築くことができ、今では子ども達から挨拶もしてくれますし、今まで知らなかった人との繋がりが築けるようになりました。

質問　子ども達にとっても、より良い育成環境が出来ているのですね。

森川　それに、子ども達は保護者と一緒に練習から参加しますので、家族内の絆も深まっていると思います。また、子ども達にとっても今は楽しいだけの思い出でしょうが、大人になった時にきっと三原に愛着を持ってもらえると思っています。

多くの人に賛同していただきたい

質問　これからの課題などありますか？

葛西　やはり、継続して行ってゆくには引き継いでもらえる人材育成だと思います。私達もよく人から「好きだからできる」と言われますが「好きだからやっている」わけではありません。「やらなければならない」という使命感があるから頑張っているのです。今年は学校から参加者を募るポスターも作っていただき、より多くの方に知っていただくことで、この事業に賛同してもらえる方を増やしてゆければと考えています。

本紙5月号において糸崎小学校に取材させていただいた際に、地域・学校・保護者の3者が一体となっている小学校チームができた原点は、地域の方達の頑張りがあって実現できた取り組みだと知ることができました。

本年度（社）三原青年会議所では、現在の青少年にある犯罪の凶悪化・低年齢化・学力の低下などの問題の原因の1つに、地域の共育力の低下があると思います。そこで、地域の人とひととが積極的に関わり合う取り組みが必要だと訴えてきましたが、ここでは地域の人が主役となって素晴らしい取り組みを行い、多くの大切なものを子ども達に伝えているのだと実感できました。

来月は、いよいよ「やっさ祭り」本番です。祭りを通じて一人でも多くの子ども達に素晴らしい体験を得られるように、郷土愛育成委員会は引き続き活動に邁進してまいります。

社団法人 三原青年会議所 6月例会開催

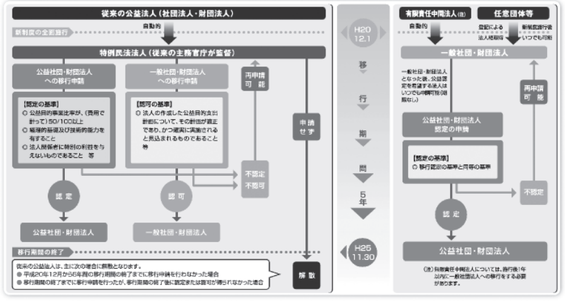
新法人格取得に向けて

～我々の未来を切り拓くために、学び・考える～

公益社団法人 吹田青年会議所
村上 淳 君（むらかみ じゅん）

総務委員会（新田 圭司委員長）は6月例会において、公益社団法人 吹田青年会議所 専務理事 村上 淳 君をお招きし新法人格取得に向けてと題し講演を行なった。

青年会議所の中でも、いち早く公益社団法人格を取得された経験談をもとに公益法人制度改革の実施の背景や2013年11月までに選択してゆかなければならない特徴について語っていただいた。



本紙"やっさもっさ"は、ここに掲載の企業のご協力と（社）三原青年会議所の自主財源で発行しています。

アイ オイ 福原（株）
アイ ウィル土居写場（株）
クリエイティブ・ライフ
Ⓐ赤石硝子建材
グロッタアッズーラ
公認会計士浅田勝彦事務所
安芸緑化機材（株）
藝陽日日新聞社
（医）仁康会 小泉病院
広愛産業（株）
玄米精乳 朝日養素
晃栄不動産（株）
あなたのまちの郵便局
広陽フッソ産業（株）
あまの歯科・矯正歯科クリニック
（株）コグマヤ
イーグル（株）
コパックス
イノセント
小松木工（株）
スナック・お好み焼きいろは
（株）サービスセンター
岩西自動車
（有）サーブインターナショナル
（有）上田製版印刷所
阪井養魚場
上田鉄工（株）
坂元鉄工
おばんざいうさぎ（株）
笹井産業（株）
ウツミ
佐竹工業
な
宇野税理士事務所
三基工業（株）
サツキ工業
サイクルショップうらさき
三協立山アルミ（株）
三陽環境管理（株）
エヌワイティグループ
山陽建設（株）
MSTUDIO（株）
エルサ
山陽高速印刷（株）
大石製作所
山陽製粉（株）
大下建設（株）
シゲモリ本店
オートドリーム三原
CBテクノロジー（株）
大東印刷（株）
JT日本たばこ産業（株）
大成土地家屋調査士事務所
しまなみ信用金庫
（株）オギロバン
自動車ガラス三原
お茶の平野園
秀花しゅうか
住
小野税理士事務所（株）マネジメントブレインズ
順勝寺
ピアノラウンジ帯
（有）笠下工務店
城南観光（有）
片島尚子税理士事務所
新宅建設（株）
正田文華堂
親切ギフトかつはら
（有）新和通信
勝原不動産
（有）シー・イー・サプライ
勝勝村商店
イイロ
勝村木材（株）
社会福祉法人 泰清会
カネダ漢方薬品（株）
スミ
カネネット（株）
www.sudachi.org/
（有）カネイム
セブンイレブン三原駅前店
上田商店
セブンイレブン三原宮沖店
カルビ屋大福三原店
（株）ガルバ興業三原工場
（株）大建組
（有）完山商店
（有）大日ヘルスショップ
キャヤメル
（有）高山ペットショップ
共立電機産業（株）
（有）タクトコーポレーション
（有）共和設計
竹本自動車
（有）共和不動産（株）
田中運輸
食事・酒処きらく（株）
田中組三原支店
桐島電気管理事務所
田辺澱粉工場
牛ちゃん
（有）多森薬局
クラーク矯正歯科
季節料理ちか
チキャン・303
益谷建設（株）
（有）中央地所
松尾社労士事務所
（株）中国新聞サービスセンター
（株）松田鉄工所
（有）中国補聴器
ジュエリーサロンまつば
ディアナ～月～ランマリア
（有）ツヅラ塗装
マミー化粧品
デオデオヒラハシ電機
おしゃれサロンマルゼン
くし焼き狩（株）
みどり商会
（有）東亜不動産
みどり幼稚園
（有）寺迫組
みどり書店
富野機工（株）三原営業所
三原カンツリークラブ
（株）トーヨー塗装
三原郷心会
和食処登喜将（株）三原国際ホテル
トレジャーハラシ代行
（有）中川広告（株）三原シティホテル
（有）中川書店
三原重量（有）
中間醸造（株）三原スーパー
なぎさ医院 内科・皮膚科
（有）三原総和
なばれレディースクリニック
三原ターミナルホテル
（株）ナンバ洋服店
エム・キャット三原テレビ
にったん文具店（株）三原美装社
皆実町（有）灰谷鉄工所
三好印刷（株）
博善社みやうら会館
浜松組盛影塗装（株）
（有）原アルミ建材
（株）森剛
光自動車ガラス専門店
天ぷら割烹もみぢ
HARAJIN&ONOJIN（株）やっさ石油
上菓献銘 ヤッサ饅頭 ヤッサ饅頭本舗 三原の味です名物です
半さん
ビストロSOBO
TKC桧山税理士事務所
（株）ヒューマンクロスカンパニー
平田歯科医院
木商店
（有）平田歯科医興
広
（有）ファースト
マイエッグ ヤマナ
（株）ファースト
山田脳神経外科
ラウンジ
（医）山本衣料（株）
ファミリーレストラン太陽樹高須店
吉井ビジュアート（有）
富久
寝・生活館よしなが
（株）藤井建設（株）
藤井建設
由水酒販（株）
井夜船司法書士事務所
（株）富士金属工業（株）
ラウンジOB
フジ フジグラン三原（株）
ブライダルサロン（株）ラベルフィーユ
フジグラン三原名店会
（株）リアルサポート
（株）富士鉄工所
リカーショップだいしん
（株）古川製作所
下町の居酒屋六文銭
フルモト建機（株）
YKKAP（株）
文化シャッター（株）
ラウンジy's
ペアー設計工房
（有）渡辺商会
（有）ボディーショップたまがわ
渡辺土地建物（有）
本郷建材工業（株）
賀・売・質わたべ
ホンダカーズ三原皆実
（有）本田石材工業
（株）まじま製麺